

《 腎機能の“見える化”で、紹介のタイミングを逃さない 》

副院長 兼 臨床検査室長 小林 雅子

病理診断科の小林です。病理診断を専門としておりますが、臨床検査室長も兼任し、検査と臨床をつなぐ立場として活動しております。

当院検査室では6年前より、CKD診療ガイドラインに基づき、「腎臓専門医への紹介対象」となる患者さんを検査データから抽出し、腎臓内科への円滑な紹介をサポートする取り組みを行っています。具体的には、eGFRの経年変化をグラフ化し、eGFRスロープ（年間低下率）や透析導入の目安を可視化した「腎機能表」（下図に事例）を作成しています。これにより、腎機能の低下スピードを直感的に把握し、紹介のタイミング判断や患者さんへの説明にご活用いただいております。この取り組みにより、院内ではこれまでに60例を超える腎臓内科への紹介がなされ、介入後にeGFRスロープが改善した症例は約75%と高く、腎機能の維持や心血管リスクの軽減に繋がっています。

「腎機能表」は開業医の先生方からの紹介患者さんに対しても作成が可能です。

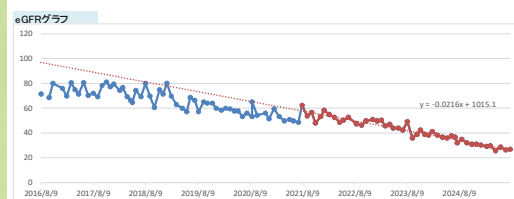
以下のようなケースで、ご活用をぜひご検討ください

- ・CKDにあてはまる、あるいはCr値が徐々に悪化しているが、紹介のタイミングに迷う
- ・糖尿病・高血圧など慢性疾患を抱えており、腎機能が気になる
- ・腎保護薬を使用しているが、効果はどうか
- ・尿蛋白や尿潜血が陽性



腎機能データシート2

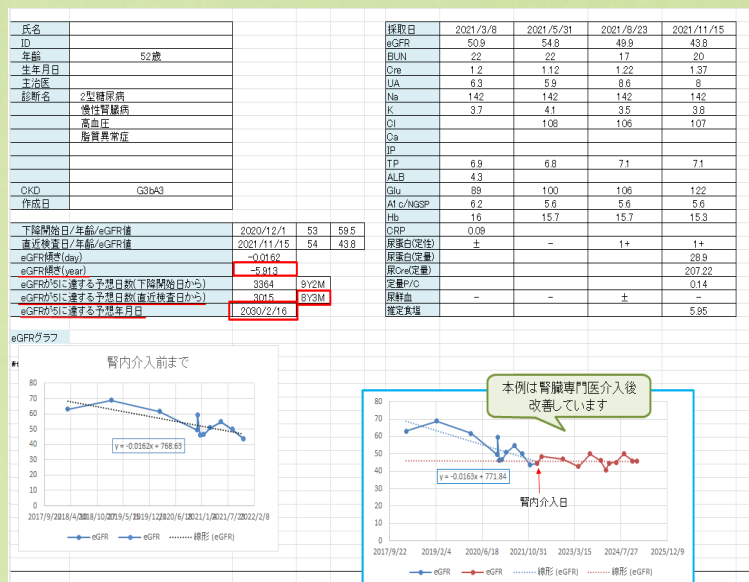
氏名		CKD重症度分類	G4 A3
ID		△eGFR (年間低下率)	-7.884
年齢	54歳	透析導入予測時期 (eGFR5)	2028/11/18
生年月日		作成日	2025/8/5



CKD重症度分類 (日本腎臓学会 CKD診療ガイド2024)

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3
糖尿病関連腎臓病	尿アルブミン定量 (mg/日)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	30未満	30~299	300以上
高血圧性腎硬化症 腎炎 多発性骨髄腫 移植腎 不明 その他	尿蛋白定量 (g/日)	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL分/1.73m ²)	G1 正常または高値	≥90		
	G2 正常または軽度低下	60~89		
	G3a 軽度~中等度低下	45~59		
	G3b 中等度~高度低下	30~44		
	G4 高度低下	15~29		★
G5	末期腎不全 (ESKD)	<15		

現在、どの区分に相当するか印をつけてあります



eGFRの値をお送りいただければ、当院にて腎機能表を作成し、ご返送いたします（3点以上。年1回（すこやか検診など）、最低3年分あればなおよい。年齢・性別がわかれば、Crでも可能）。紹介状に「腎機能表作成希望」とご記載ください。

今後も、開業医の先生方との連携を大切にしながら、患者さん一人ひとりにとって最適な医療を提供できるよう努めてまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

《 肛門疾患治療のご紹介 》

外科 太田 尚宏

当科は2名の外科医で構成され、腹腔鏡をはじめ、緊急疾患や肛門疾患まで幅広く対応しております。いまや主流の一つといえる、腹腔鏡手術を積極的に取り入れております。腹腔鏡のメリットは傷が小さいこと、それによって疼痛も軽減され、早期退院が可能となっていることが挙げられます。また少し専門的な話をすれば、拡大視効果で従来より精緻な手術が可能となることです。今回は、一般的によく出会う疾患である肛門疾患についてお話をしたいと思います。



おしりの悩みはさまざまで、多くの場合、誰にも相談できず、自分でなんとかしようとしているかたが多いと思います。下血などであれば、比較的相談しやすく、こちらとしても対応しやすいのですが、内視鏡で悪性疾患を除外してしまうと、つぎの段階が悩ましいことが多いと思います。結果的に外用薬を長期間処方し続ける状態に陥ってしまうことが多いとおもいます。

当科では、痔核、裂肛、痔ろうなどの肛門疾患や、便秘、便失禁などの機能性疾患にも対応しております。もちろん加齢による影響も大きく、必ずしもすべて改善できるわけではないですが、症状の軽減が望める場合もあります。

痔核に関しては結紮切除と、最近広まってきている、切らなくても治る硬化療法を主軸としており、痔核の程度や状態などで使い分けています。適応をしっかりと判断しないと、せっかくの切らなくて治る硬化療法も容易に再発してします。

裂肛は、急性期と慢性期に分けられます。急性期であれば、単純な浅く狭い機械的損傷ですが、慢性化してくると、最初はすり傷程度だったものが潰瘍を形成し、痔ろうや肛門狭窄となることがあります。痔ろうは肛門周囲の皮膚と直腸がつながる状態で、肛門周囲膿瘍で発症することが多いです。何年も放置すると癌化することが知られており、早めの治療が肝要で、基本的には手術治療が原則です。また炎症性腸疾患が隠れていることもあるので注意が必要です。

そのほか、腸が肛門から脱出する直腸脱や便秘、便失禁などの排便障害も相談に応じます。直腸脱は小児と高齢者に多く、外科的治療の適応となることも多い疾患です。本人からの訴えもありますが、最近では介護する方によって発見され、相談に来られる方も多くなっています。機能性疾患では、特に便失禁は相談しにくく、潜在的に多く患者様が悩んでおられる可能性があります。加齢性変化の影響も大きく、必ずしも大きな改善は望めませんが、最近では、適切な症例であれば仙骨神経刺激療法といわれる、ペースメーカーのような装置を埋め込むことで、生活の質がかなり改善する場合があります。

これら、発症すると生活の質を大きく左右する疾患群は、なかなか相談もしにくいものも多く、長期間放置すると、著しく生活が困難になる場合もあります。そうなる前に、ぜひ一度お気軽に相談いただければ幸いです。



《 新規登録医のご紹介 》

●金沢てらじクリニック 院長 山本 康隆 先生

2025年5月に金沢市寺地で開院致しました「金沢てらじクリニック」の山本康隆と申します。

私は長年、大学病院から総合病院で内科、腎臓内科医として勤務していた経験を何とか地域の方々に貢献できないかと考えておりました。

当院は地域の皆様に内科全般から腎疾患、透析療法に至るまで幅広く専門的治療を受けられるクリニックを目指し、地域の皆様に安心・信頼されるよう努めてまいりたいと考えております。

昨今、慢性腎臓病がある方は65歳以上の高齢者で約30-40%と言われております、早期の診断、治療が腎臓機能をより長持ちさせることもありますので、お気軽にご相談していただければと思います。

当院の透析療法に関してはなるべく患者様にストレスがないよう環境作りを意識しております。また無料送迎も行っておりますので通院が難しくなってきたと思われましたら、当院へご相談していただければと思います。

地域の内科、腎臓内科として不安なことがありましたら、お気軽にご相談していただければと思います。皆様の健康をサポートできるよう努めてまいります。

金沢てらじクリニック 山本 康隆

住所：921-8178

金沢市寺地1丁目21番16号

TEL：076-225-3301

診療科名：内科、腎臓内科、
人工透析内科

休診：金沢てらじクリニックホームページ
より

引用

<https://kanazawa-teraji.com>

(2025/7/22 現在)

一般外来診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00 - 12:30	○	○	○	○	○	○
14:00 - 17:30	○	○	○	—	○	—

※ 木・土曜日午後休診、日曜、祝日は休診

透析診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30 - 13:00	○	○	○	○	○	○
13:00 - 17:30	○	—	○	—	○	—

※ 現在、透析は8時30分からを予定しておりますが今後、透析時間を早める可能性もあります。

●金沢ねいろクリニック 院長 小川 尚彦 先生



2025 年 4 月に金沢市三口新町にて「金沢ねいろクリニック」を開院いたしました。

当院は 24 時間 365 日対応の在宅医療を主に行う在宅療養支援診療所であり、急な体調変化にも往診可能です。地域の基幹病院、介護施設や訪問看護ステーション、薬局、ケアマネージャー等の皆様と連携し、患者様とご家族が住み慣れた環境で安心して過ごせるよう、きめ細やかな支援に努めております。

私は 2013 年に金沢大学を卒業後、金沢大学呼吸器内科に入局し総合内科・呼吸器内科を専門に学んでまいりました。その経験の中で、「病気を治す」ことももちろん大切なのですが、患者様の「どこで、誰と、どのように生きたいか」という人生の価値観に親身に寄り添い、支える事が医療の本質だと考えるようになり、訪問診療の道を志すようになりました。

現在、がん末期の緩和医療、神経難病など特別な医療機器や処置が必要な患者さんでも在宅で療養できる体制を整えております。

ピアノが趣味で、老人ホームなどでボランティアのコンサートを継続しており、患者さん・ご家族に寄り添う「心に響く医療」の実践を理念として掲げております。通院の負担が大きくなってきた方、ご自宅や施設で過ごしたい方など、いらっしゃればお気軽にご相談ください。

住所：〒920-0944

金沢市三口新町 3 丁目 6-27

TEL：076-255-1721

診療科名：内科、呼吸器内科、訪問診療

休診：土曜・日曜・祝日（緊急の往診は 24 時間、365 日対応）

ホームページ：<https://neiro-cl.com>



《 地域連携室副室長のご挨拶 》

地域連携室副室長 兼 消化器内科医長 熊井 達男



2025 年 4 月 1 日より金沢市立病院に着任しました、消化器内科の熊井達男と申します。

この度、地域連携室副室長を命じられましたので、ご挨拶申し上げます。

これまで金沢大学病院を含め、北陸 3 県で診療させていただきました。地域ごとに特性があるかと存じますが、金沢市内には大学病院や金沢医療センター、石川県立中央病院などの大規模病院、金沢市立病院を含めた中規模病院、開業医の先生方を含めた小規模病院が多数存在しています。



当院の特徴としては、大規模病院とは異なり、各医師が顔を合わせて相談しあえる距離感で仕事をさせていただいておりますので、複数科にまたがる疾患をお持ちの患者様にも安心して医療を提供できると考えております。地域の先生方からご紹介いただいた患者様を当院で精査・治療し、状態が安定すればまた地域の先生方に逆紹介させていただく、良い意味での紹介・逆紹介の循環ができればと考えております。

また、ときにはかかりつけ医の先生と当院担当医の二人主治医（場合によっては、複数主治医）でより良い医療を提供できればと思います。

現在、当院消化器内科は、日本消化器病学会・内視鏡学会・肝臓学会の専門医 3 名と、専攻医 1 名の計 4 名で診療しております。早期消化管癌（食道・胃・大腸）に対する内視鏡的粘膜下層剥離術や胃大腸ポリープの内視鏡的粘膜切除術、総胆管結石や胆膵腫瘍による閉塞性黄疸に対する胆膵内視鏡検査治療（採石やステント留置）を始め、消化器癌に対する化学療法、炎症性腸疾患に対する薬物治療、肝炎治療や消化管出血に対する緊急内視鏡での止血術、その他消化器一般に関する精査治療と幅広く対応させていただきます。消化器内科と消化器外科では、病理医を含めて週 1 回カンファレンスを行い、治療方針を相談しております。また、緊急対応時（内視鏡・外科治療）を含め、消化器内科と消化器外科で密に連絡を取り、診療させていただいております。

消化器疾患に関わらず、当院には複数の専門科があります。日々の診療で診断や治療にお困りの場合や急患でお困りの患者様がいましたら、お気軽に当院にご紹介いただければ幸いです。

よろしくお願い申し上げます。



《 医療・介護連携に関する研究会 開催報告 》

来る 2040 年問題を見据え、地域全体での医療・介護サービスの円滑な提供体制構築を目指し、第 1 回「医療・介護連携に関する研究会」を開催しました。

研究会は、講演とパネルディスカッションの 2 本立て開かれました。講演では、2 つのテーマ「診療情報ネットワーク整備の必要性」「金沢市における高齢者福祉の取組」で、副院長兼地域連携室室長 村井 久純、金沢市役所 福祉政策課 課長 藤本 敏文氏を講師に迎え講演が行われました。

パネルディスカッション

テーマ

「金沢市における医療、介護、福祉連携の現状」

パネリスト

- ・大野内科医院 大野 秀棋 院長
- ・陽風園地域福祉プラザ 施設長 垣内 光子 施設長
- ・金沢市役所 福祉政策課 藤本 敏文 課長
- ・松下 栄紀 院長
- ・村井 久純 副院長兼地域連携室長

モデレーター

- ・高田 重男 病院事業管理者



パネルディスカッションでは、金沢市における医療、介護、福祉連携の現状について活発な議論が交わされました。高田病院事業管理者は、本研究会が今年度 3 回開催されることに触れ、今後も多くの参加を呼びかけ、忌憚のない意見を求めることで、より良い医療・介護連携の実現に繋げていきたいと締めくくりました。

今後の研究会の開催については、金沢市立病院地域連携室のメール便などでお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

《 地域医療支援病院運営委員会 開催報告 》

地域医療連携のさらなる推進において、今年度第 1 回目の地域医療支援病院運営委員会を開催いたしました。委員会では、令和 6 年度の活動報告を行い、金沢市医師会・歯科医師会、白山市医師会、石川県・金沢市の代表、学識経験者などが参加し、多角的な視点から、地域の皆様への医療提供体制の強化と、病診連携の推進について活発な議論を行いました。

今後も地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携を密にし、地域住民の皆様が安心して質の高い医療を受けられるよう、地域医療連携のさらなる充実に努めてまいります。ご意見がございましたら、お気軽に地域連携室までお問合せください。



地域連携室看護師長 谷口 陽子